

を言います。

その時、言葉だけでなく、顔の表情、身振り、態度、姿勢、声の調子などもあわせてみるようにします。

？やりとり分析をなぜする必要があるのでしょうか？

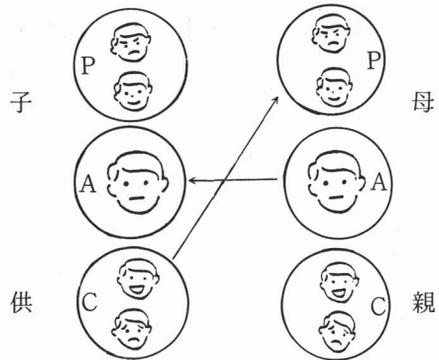
- ① 相手との会話でじっくりいかず結果的に人間関係がうまくいかない時、どのような原因があるのか。
- ② どのようにすれば、その原因をとり除くことができるか。

を知ることができます。すなわち、よりよい人間関係を築いていくことができます。

？やりとり分析はどのようにするのでしょうか？

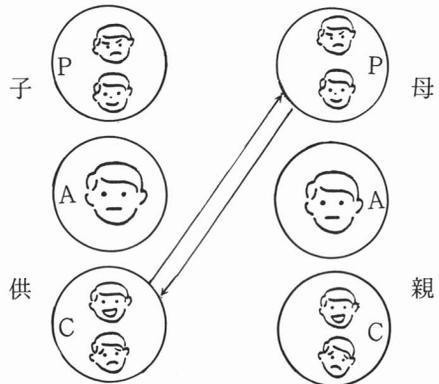
- ① 自分がどの自我状態から発した言葉か判断します。
- ② 相手はどの自我状態からの言葉を期待しているのかを考えます。
- ③ 相手がどの自我状態から発した言葉か判断します。
- ④ 相手は自分のどの自我状態からの言葉を期待しているのかを考えます。
- ⑤ ①～④を直線と矢印で図示してやりとりの内容を考えます

たとえば、例1で①子供が母親に「おなか痛い」と言った言葉はC（チャイルド）の自我状態です。②この子供が母親の母親的なやさしい対応を求めています。③一方母親は冷静に判断した対応です。④すなわち子供から冷静な返答を期待してます。⑤以上を直線と矢印で表すと例1は次のようになります。



(上図のP、A、Cの顔の意味については所報86号P.16をご覧ください。以下は同様です。)

同様に例2は次のようになります。



そこで、やりとり（交流）には

- ア. 相補的なやりとり（相補的交流） の3つ
- イ. 交叉的なやりとり（交叉的交流） のタイプ
- ウ. 裏面的なやりとり（裏面的交流） があります。

次に3つのやりとり（交流）について詳しくお話していきましょう。

ア. 相補的なやりとり（相補的交流）

次の例をご覧ください。

子供：先生、ここわからないのですが教えてくださいませんか。
先生：ここだね。ここね、こうやるんだよ。わかったかな。